

○平成24年度調査研究について

研究テーマ	住環境における空き家問題 ※「環境」分野から研究員が自ら選定
期間	平成24年6月19日～平成25年1月31日（計12回）
修了者	9人（川崎市、相模原市、平塚市、小田原市、茅ヶ崎市、大和市、伊勢原市、開成町、センター職員）
アドバイザー	相模女子大学人間社会学部 教授 松下 啓一氏
研究の概要	<p>今年度から目標である「政策形成能力等の向上」をより効果的に達成するため、課題の抽出から解決策の提案までを経験することができるカリキュラムに変更した。主な変更点は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマを研究員自らが選定する。</li> <li>・アドバイザーを政策形成の専門家とする。</li> <li>・報告書には具体的な施策案を掲載する。</li> </ul> <p>上記に基き、研究員には事前課題として「興味のあるテーマ」を提出してもらい、その中から研究テーマが選定された。</p> <p>研究報告書では、日本全体の空き家対策の動向や神奈川県内における傾向を調査し、空き家が発生するメカニズムについて分析をした。また、先進的な取り組みを行っている自治体の事例についても調査を行った。</p> <p>それらのデータを基にし、「管理不全な状態を未然に防ぐ施策」「発生した空き家を活用する施策」「それらの施策を効果的に運営する仕組み」について提言を行った。</p>
報告書目次	<p>第1章 本研究の目的と構成</p> <p>第2章 現状と課題</p> <p>第3章 空き家対策条例</p> <p>第4章 先行自治体の取り組み</p> <p>第5章 管理不全な空き家にしないために</p> <p>第6章 管理不全な空き家への対応</p> <p>第7章 新しい仕組みづくりの提案</p>